

## 15 地域へ届け！私たちの思い

### ～下高井農林高校グリーンデザイン科の取組～

下高井農林高等学校 グリーンデザイン科 2年 ○上埜 達郎  
○河野 悟大  
○伊東 涼斗

#### 1. 課題を取り上げた背景

本校グリーンデザイン科では地域に眠る資源を発掘し、抱える課題に目を向け、「ものづくり」を中心に活動を展開してきました。1年間の学びで身につけた知識・技術を実践に先輩から後輩へ受け継ぎ、その活動は年輪のように確実に刻み込まれています。

本日は、私たちが実践した3つの活動を発表させていただきます。

#### 2. 活動報告

##### (1) シブガキ応援隊（獣害対策）

近年、私たちが暮らす里山地域にもツキノワグマの出没頻度が増え、大きな問題となっています。学習を進める中で野生鳥獣（熊）について学習し、問題回避には私たちが地域と一体になって取り組むことが大切だと学びました。本活動は今年で3年目となり、地域の方々・行政の皆さんと、これから地域を担う私たちが連携し、安心して生活できるように野生鳥獣被害防止対策を実践しました。

干し柿の生産技術は年々向上し、商品として販売できるまでになりました。しかし、私たちの手だけでは柿の収量がまだまだ少なく、地元の方々へ参加を積極的に呼びかけ、地域全体へ活動を広げたいと考えています。



柿の収穫

##### (2) バンブーキャンドル作成（放置竹林対策）

山ノ内町湯田中温泉で放置され拡大しているモウソウチク林を資源として考え、地主さんから許可を得て、「ものづくり」の観点から新たな活用法の提案として、バンブーキャンドルへの利用を実践しています。

放置竹林には多くの問題点があり、地域の植生や治山環境を悪化させています。この状況を改善するため、バンブーキャンドルの製作に取り組み、同時に竹の新たな利用方法を地域に発信しました。具体的には、飯山市の老人ホームでの納涼

祭や灯籠祭り、木島平村馬曲（まぐせ）温泉の通路へ設置させていただき、放置された1本の竹に新しい命を吹き込むとともに、明かりが灯された竹を目にした方々から、「癒される」「毎日見ていたい」「村の観光資源にしたい」などの声をかけていただきました。このことから、私たちの活動は地域に眠る資源を掘り起こし、厄介物の竹を観光資源として活用でき、発想の転換の大切さを学ぶことができました。

##### (3) 木の良さを子供たちに伝える（木育教育）

「森林のすばらしさを、どうすればもっと多くの人に伝えることができるのか？」をテーマに、私たちは活動しています。先輩方は「はし作り」を通して森林・林業の大切さを訴えてきました。私たちはその思いを受け継ぎ、新たに地元の保育園と交流を行い、木製玩具を用いた木育教育を実践しました。幼児期から無垢の木に触れてもらうことで木に親しみを持ち、いずれは自然への親しみや森林環境への理解を深めてもらい、生涯にわたって森林整備に対する理解者となってもらえたらと考えました。

車のおもちゃは設計から加工まで私たちの手で行い、部品の最終組み立ては保育園を訪問して園児自ら行ってもらいました。言葉で木材の機能を説明しても園児には理解してもらえないため、手の感触で木材の素晴らしさを実感してもらうため、氷の上に金属板、プラスチック板、木の板を置き、園児に触ってもらいました。園児は木のぬくもりを感じ、宝物を見つけたような輝いた目で、「暖かい」と部屋の外まで聞こえる大きな声で答えてくれました。

#### 3. 今後の展開

私たちは活動を通じて地域の皆さんの心の温かさに触れ、「確かな技術を学び、伝え、地域への恩返しをしたい。」との思いが増大しました。今後も、地域に目を向け、地域の課題を探り、地域の資源を活用しながら私たち高校生の力で地域を動かす原動力に発展させるため、活動を継続していきます。なぜなら、私たちの命を育ててくれた宝物である北信濃の森林を後代に引き継いでいきたいからです。



バンブーキャンドル



木製玩具